

授業見学から学んだこと

留学生教育センター 特任講師
文学修士 韓国文学修士 野口生也

今回見学した授業は、大島朗生先生担当の「臨床心理士・公認心理師試験対策授業」であった。当授業内容は、中島総長先生の指導のもと大島先生が大学院生を対象に3時間で論述試験対策を伝授するものであった。以下、今回の授業見学を通して学んだ三つのことを述べる。

第一に、授業の目的が首尾一貫していた。目的がぶれなかったことで授業のタイムマネジメントおよび解説が無駄のないものとなっていた。授業冒頭の総長先生の指導の中でも述べられていたが、この授業の目的は「受講生に論述試験で合格してもらうこと」であった。この目的が強く意識されていたからこそ、授業開始直後から、いくつかの文章を暗記させ、最終的には、まとまった文章を書かせていた。もし私が同授業を担当していたら恐らく些末な日本語表現の解説から始め、文章の構成のなんたるかをくどくどと説明するだけで、実際の論述は授業後の課題にしてしまったと思う。今回の授業見学から、授業目的をしっかりと最後まで果たすことの重要性を学んだ。

第二に、伝授した論述試験対策が合理的であった。総長先生の指導のもと行われた論述試験対策とは、頻出する論述テーマに使える断片的な文章をいくつか暗記し、本番の試験では課されたテーマに沿って暗記した文章を再構成するというものであった。この方法であれば、たとえ文章を書くのが苦手であっても、暗記した文章をそれなりに書けばある程度の点数がもらえる。さらに、この方法で書いた文章を担当教員に添削してもらい、その添削された文章を暗記する。そして、これを数回ほど繰り返せば容易に合格点レベルの文章が書けるようになるというわけである。非常に合理的であり、なによりも受講生にとっては、合格への近道である。実は私が担当するキャリア科目においても、受講生に正しい選択肢と解説を暗記させているが、実にこれも非常に合理的で合格への近道であったことを再確認した。

第三に、授業が受講生第一主義であった。総長先生は必ず毎回の見学授業の冒頭で受講生は全員揃っているかを気にされていた。また、授業中随所で受講生が理解できたかを確認することの重要性を説かれていた。テキストを読むといった予習的なこと、そして、重要なことを暗記するといった復習的なことを授業の中で実行する方法を考案したのは、まさに基本的な勉強の仕方さえ苦手な受講生を意識されていたからこそのことである。私はこれまでの授業で、一方的に説明するだけで授業を終えていたことが多々あった。これは受講生のことを全く意識しない非常に不親切な授業であったと深く反省している。

以上、今回の授業で学んだ三つのことを念頭に、今後の授業に活かしていきたい所存である。今後も積極的に、総長先生が指導する授業をはじめ受講生評価が高い教員が担当する授業を数多く見学して良い点を学んでいきたい。